

■松山南ロータリークラブの誕生 (※創立40周年誌に記載)

当クラブ結成の第一歩は、昭和46年11月26日、伊予鉄会館で行われた第1回クラブ創立準備委員会であった。

当日、松山、松山東、松山西の各クラブの会長、幹事、拡大委員会、さらに愛媛第Ⅱ分区代理の二神氏の出席を戴き、新クラブキーマンとして、大西、有光、長曽我部、渡部、重松が出席した。席上、特別代表に梶浦暉一氏(松山RC)が決定され、上記3クラブの会長がそれぞれの理事会の賛成を得て、それを二神分区代理(現在ガバナー補佐)が山中ガバナー(松山東RC)に報告し承認され、上記3クラブはその意を受けて協同スポンサーとなる。梶浦特別代表を中心に幾度かの計画会議がもたれ、加戸(松山東RC)、小島(松山RC)、沢田(松山RC)氏らの指導も受けた。

昭和46年12月2日には、松山市を横切る石手川及び国道11号線より西の松山市、伊予市、砥部町、東温市(旧：重信町、川内町)を当クラブのテリトリーに決定した。また例会場には、松山市民会館、萬翠荘、伊予鉄会館等が候補に上がったが、種々検討の結果「三越」を最終候補にしぼり、駐車場の便宜も計って戴く事を含めて交渉し、三越より快諾を得たので「三越8階レストラン(旧：三越8階レストラン・ルイ)」を正式に会場と決めた。昭和47年3月5日、創立総会が当時「明治生命ビル7階ホール」で挙行された。来賓、先輩クラブの方々70余名の立会いのもと、当クラブ第367地区(現在第2670地区)における第44番目のクラブとして誕生した。

名称も正式に「松山南ロータリークラブ」とし、初代会長に大西梅吉氏を推挙した。続いて3月12日、国際ロータリー本部より松山南ロータリークラブ加盟承認の通達があり、3月16日には松山市の花である椿の花とテリトリーの境界線となる石手川を配したバナーを作成した。

昭和48年4月22日、松山東雲短期大学において、大西初代会長の点鐘により国際ロータリー加盟認証伝達式が約450名の出席のもと盛大に式典が挙行され、名実共に国際ロータリーの一員として出発し、今日に至っている。

■国際ロータリー加盟認証状 (※創立5周年「あゆみ」に記載)

このロータリークラブは、正式に結成され、且つその役員および会員を通じ、国際ロータリーの定款並びに細則を遵奉することを誓約することは、本証書を受納することによって立証せられた。よって、ここに国際ロータリーの会員たることを正式に承認せられ、且つその会員としての権利と特典を享受するものであることを証明する。その証として国際ロータリーの印章を捺し、正規の権限を有するその役員がここに署名するものである。



国際ロータリー加盟認証状

■クラブバナーの作成由来

バナー中央の川は、松山市を横切って流れる石手川を模したものです。

S型にしたのは「南」を英語で書いた時の South の頭文字です。

椿の花は、昭和47年3月3日に松山市の花に定められたのと、当クラブ発足がおよそ同時期(昭和47年3月5日)であったためであり、また松山市の関係者より聞いたところによりますと、椿は日本古来の花で、青森以南の日本中にあり、大変公害にも強いとのこと。椿に関して、江戸以降、暗い考え方がありましたが、これは椿の花が「武士が首を落とす時」のように似て、ポロリと落ちるかららしく、万葉集にある「河上のつらつら椿つらつらに、見れどもあかず、こせの春野は」「あぎも子を早見浜風倭なるあが待つ椿ふかざるなゆめ」等々の歌があり、また中世に宮中の儀式に椿の杖を作り、老翁に与えられたことがあり、日本書記には、日本武尊熊襲征伐の折、椿の木で槌を作り、賦を討ったとの記事が見られます。木の強さ、粘り強さと独特の花の美しさが、日本人には古くから愛されていたようです。



クラブバナー